

10月15日愛知県議会本会議での閉会あいさつ（関連部分抜粋）

第4回目を迎えた、我が国最大級の国際芸術祭であります「あいちトリエンナーレ2019」につきましては、昨日、会期75日間を無事終了することができました。

この間、106の企画のうちの一つである「表現の不自由展・その後」を巡って、電凸攻撃、脅迫電話・メール、犯罪・テロ予告のFAXなどにより、8月4日から中止とさせていただいておりましたが、9月25日のあいちトリエンナーレ検証委員会の検証報告の中での「リスク回避等を十分に講じるなどの条件が整い次第、すみやかに再開すべきである」との提言を受けて、関係者と精力的に協議を行い、安全面、セキュリティ対策に万全を期して、10月8日から、この展示と共に中止となっていた14組の作家が全員復帰して全面再開とすることができました。

そして、昨日までに、名古屋・豊田会場あわせて67万人。特に、県芸文センターでは33万人と前回の8割増。過去最高の来場者をお迎えする中で、円満に芸術祭を終えることができました。国内外からお越しをいただきました多くのお客様、作家・アーティスト、芸術祭関係者、県民すべての皆様に、心から感謝申し上げます。

また、今回の一連の経緯につきましては、県議会の皆様はじめ多くの県民の皆様に、多大なご心配をおかけしましたことを、改めて、おわび申し上げたいと思います。今後は、今回の経緯をしっかりと検証・反省し、検討委員会での議論や提言も踏まえながら、愛知の文化・芸術の振興に、改めて、全力で取り組んでまいりたいと存じます。